

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	008	自然環境教育	施策	028	自然環境の保全・再生	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	--------	----	-----	------------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
062	国蝶オオムラサキの生息環境を保全・再生し、生態を公開します。	充実	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	計画策定会議の開催（単位：回）	0	3	2	3	0	3	0	3	0	現状値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	計画策定会議への参加（単位：人）	0	5	4	5	0	5	0	5	0	現状値：未実施
	観察飼育舎来場者（単位：人）	4,294	10,000	3,725	10,000	0	10,000	0	10,000	0	現状値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	町内の児童生徒のほぼ全員がオオムラサキの観察を経験するなど、教育現場からのニーズも高い。さらに、自然教育分野に限らず、町のシンボルとしての価値もあり、必要な事業であると判断する。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。 指定管理委託を導入しているが、オオムラサキの飼育・繁殖業務については、専門的な知識を要するため、行政が指導している。さらに、野草園の管理にあたっては、自然関係団体の作業協力を得るなど、実施方法は最適であると判断する。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。 オオムラサキの飼育・繁殖業務については、専門的な知識を要するため、行政が飼育員を雇用している。さらに、野草園の管理にあたっては、自然関係団体の作業協力を得るなど、最適であると判断する。
効 率 性	2. 事業費コストに改善の余地がある。 指定管理料を含め、現状で最低限のコストで運営していることから、コスト低減の余地は少ないが施設を集約（ふれあいプラザと統合）することでコスト低減の余地はある。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	一般開放をしており、町内の児童生徒のほぼ全員がオオムラサキの観察を経験するなど公平性が図られていると判断する。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める ふれあいプラザへの観察飼育舎設置後のファーブルの森の活用方法、オオムラサキ生息環境保全の対策、関連施設の管理運営方法を専門家、関係機関・団体との協議より、行政の役割を明確化する。
	1. 計画通りに進める 1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める 2次評価と同様

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	今後の事業計画及び管理・運営方法等については、平成27年度を以って指定管理施設より除外。平成28年度ファーブルの森観察飼育舎は直営で管理予定。飼育員は地域おこし協力隊2名により飼育。草刈り等の管理作業委託も検討。ふれあいプラザへの観察飼育舎設置後もオオムラサキ自然繁殖地として活用。滝下地区の保全方法も今後検討が必要。
課題・問題点	ファーブルの森、ふれあいプラザの管理、一元的な管理により担い手、コスト低減も図られるため、ファーブルの森観察飼育舎とふれあいプラザと併せて管理委託が最善であるが、NPO法人雨煙別学校の下承を得ることが困難である。滝下地区の保護のためにエゾエノキの植栽等も必要であり営林署との協議が必要である。
改善策	ファーブルの森から観察飼育舎を撤去後の活用方法を、ハサンベツ里山、御大師山周辺として一体的に考える必要があり、建設課等関係各課や団体、専門家も交えた検討を進める。オオムラサキの飼育の担い手となる地域おこし協力隊とNPO法人雨煙別学校との連携を図り、一元的な管理・運営を検討する。営林署との協議も行う。

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	008	自然環境教育	施策	028	自然環境の保全・再生	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	--------	----	-----	------------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
063	ハサンベツ地区の里山環境を保全・再生します。	充実	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	里山環境の整備（単位：回）	8	15	10	15	0	15	0	15	0	基準値：H25 ※ハサンベツ里山づくりの実施
	自然体験事業の実施（単位：回）	69	80	39	80	0	80	0	80	0	基準値：H25 ※ハサンベツ里山での自然体験受入
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	担い手の育成（単位：人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：H25 ※新たな担い手となった人数
	自然体験事業への参加（単位：人）	2,201	3,000	1,111	3,000	0	3,000	0	3,000	0	基準値：H25 ※ハサンベツ里山での自然体験者
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	平成13年から町民有志が子ども達の自然体験フィールドとして整備してきた結果、今ではふるさと自然体験教育を実施する上で無くてはならないフィールドであり、今後も保全は必要となる。
妥 当 性	2. 民間等が主体的に実施すべき事業であるが、現段階では行政で実施する必要がある。
	元々、町民有志が実行委員会として事業展開を進めているが、実行委員会メンバーの高齢化により、近い将来行政が管理運営しなければならい。一部管理のための臨時職員を雇用。
有 効 性	2. 目的を達成するためには、別の手段も考えられるが、現段階では最善の方法である。
	町民主体の実行委員会組織は機動性に優れ、当初の計画以上に多様な成果を挙げていることから、実施方法は最適であるが、実行委員会の高齢化により、新たな担い手の育成、管理委託等も検討が必要である。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	団体補助金を含めた行政の予算支出は必要最小限であり、コスト低減の余地は小さい。
公 平 性	2. 特定属性の不特定多数の個人・団体を対象としている。
	学校授業や親子での自然体験教育のフィールドとして、町内外の学校、親子が活用していることから公共性も高く公平である。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	担い手の確保・育成のための仕組みづくりが急務である。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	地域おこし協力隊を導入し、札幌のボランティア派遣団体とも協力、札幌圏の大学生をハサンベツ里山の日に呼び込むための仕組みを実証中であり、自然環境フィールド保全のための新たな担い手として期待できる。また、保全活動を体験プログラムとして活用するためのプログラム開発を行っている。
課題・問題点	町民に向けた環境保全の呼びかけが足りず、保全活動の意義やこれまでの環境保全の歴史を周知し、保全活動に携わる町民を増やす必要がある。また、火薬庫の沢、御大師山周辺も含め全体的な計画作りが必要である。
改善策	平成26年度に実施したハサンベツ里山のブランディングを戦略的に進めるために関係機関、団体等と協力し、広報やSNSを活用した情報発信や全体的な計画作りを実施する。また、大学等とも連携しながら環境保全プログラムを確立し、学びと保全が同時行える仕組みを構築する。

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	008	自然環境教育	施策	028	自然環境の保全・再生	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	--------	----	-----	------------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
064	人と自然との共生を推進します。	新規	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	関係団体との打合せ（単位：回）	0	0	4	0	0	0	0	0	0	基準値：H25 ※関係機関、団体との打合せ
	自然環境教育人材の確保（単位：人）	0	3	2	0	0	0	0	0	0	基準値：H25 ※専任職員、地域おこし協力隊等の確保
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	シンポジウム等の開催（単位：回）	0	4	2	5	0	0	0	0	0	基準値：H25 ※自然関係団体との連携により講演会・シンポジウム
	シンポジウム等への参加（単位：人）	0	100	68	200	0	0	0	0	0	基準値：H25 ※自然関係団体との連携により講演会・シンポジウム
	自然環境保全中長期計画策定の進捗率（単位：％）	0	20	0	100	0	0	0	0	0	基準値：H25 ※宣言も含めた計画策定の進捗状況
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	まちづくり宣言と併せて、自然環境保全中長期計画を策定するためには、専門家の意見も取り入れる必要があるため、アドバイス業務を委託している。自然環境保全のための人材確保は将来的にも必要であり、町民ニーズに合致している。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	町民有志が進めてきた、オオムラサキの生息環境の保全やハサンベツ里山活動も、公共性が高いことから行政主導で行うべき事業である。
有 効 性	2. 目的を達成するためには、別の手段も考えられるが、現段階では最善の方法である。
	行政主導で行うためには、専門的な知識・経験を有した人材を雇用する必要があるが、適当な人材を発掘するのは困難である。専門的なアドバイスを受けながら地域おこし協力隊の育成を図り人材確保に努めている。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	アドバイス委託費で、幅広く様々な分野でのアドバイスが受けられ、地域おこし協力隊を導入することにより、特別交付税の対象となるため、費用対効果は高い。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	「(仮称)人と自然が共生するまちづくり宣言」、自然環境保全中長期計画の策定は全ての町民に対する、今後の自然環境の全方法の方向性等を示すものであり、特定の個人・団体に偏っていない。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	－
課 題 ・ 問 題 点	自然環境と一口に言ってもオオムラサキ等昆虫の分野やハサンベツ里山を保全するための植物分野、夕張川及び流域の関係は魚類や河川工学等、様々な分野での専門的知識・経験が必要であるため、全て一人で出来る人材を確保することは困難であるため、長い年月で育成する必要がある。
改 善 策	地域おこし協力隊を育成し、専門的知識・経験を有する人材の確保を目指しつつ、当面はアドバイス業務委託を受けながら、「(仮称)人と自然が共生するまちづくり宣言」、自然環境保全中長期計画の策定を目指す。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	人材の確保、「(仮称)人と自然が共生するまちづくり宣言」、自然環境保全長期計画の策定のために専門家の意見を聞きながら事業を推進すること。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	008	自然環境教育	施策	029	ふるさと自然体験教育の推進	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	--------	----	-----	---------------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
065	ふるさと自然体験教育の推進と拠点施設の利活用を図ります。	充実	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	ふるさと自然体験教育の実施（単位：回）	140	140	57	140	0	140	0	140	0	基準値：H25
	施設稼働日数（単位：日）	193	220	132	220	0	220	0	220	0	基準値：H25 ※環境ハウス稼働日数
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	ふるさと自然体験教育への参加（単位：人）	3,200	3,500	2,530	3,500	0	3,500	0	3,500	0	基準値：H25
	施設宿泊者（単位：人）	2,900	3,100	2,188	3,100	0	3,100	0	3,100	0	基準値：H25 ※環境ハウス宿泊者
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	自然体験教育は重要な柱となり、青少年期での原体験の積み重ねが重要である。また、地元の事を地元の人から学ぶことが、ふるさと栗山に愛着と誇りを持った青少年育成にも繋がることから、保護者等町民ニーズに合致している。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	学校教育と青少年育成、双方とも行政が行うべき教育であり、公共性・公益性は極めて高く、行政と学校、NPOとの連携のもと、行政が主体性を持つことは妥当である。
有 効 性	2. 目的を達成するためには、別の手段も考えられるが、現段階では最善の方法である。
	指導はNPO法人に委託を行っており最善の方法と言える。コカ・コーラ環境ハウスのPR等もNPO法人に委託をしているが、現時点での不安定な経営では、部分的な委託は最適な方法である。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	事業費・人件費コストに見合った効果ではあるが、将来的には閑散期の新たなプログラム開発や、幼児や一般を対象にした事業等の導入により、NPO法人の経営の安定化を図りながら、委託費の人件費コストを削減する必要がある。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	町内外の児童、一般の方が利用しており特定の個人や団体に偏っていない。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	教員である社会教育主事を活用し、各学校との連携の強化は図られている。また、地域おこし協力隊の導入により、自然体験プログラムの指導スタッフの担い手として体制強化は図られている。
課題・問題点	コカ・コーラとの契約が切れている状態であり、施設の大規模修繕も含めて、（公財）コカ・コーラ教育・環境財団、NPO法人との連携強化を図りながら、将来的なビジョンが必要であり、NPO法人、財団、行政の役割分担の整理が必要である。
改善策	財団、NPO法人、それぞれとの協議を行い、早急にビジョンの明確化を図る。大規模修繕においてもNPO法人と協議する。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	今後も各学校との連携を図り、ふるさと自然体験教育の推進に努めていくとともに、NPO法人、財団とも連携を強化し、それぞれの役割分担を明確にし、総合的に体制強化を図ること。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	008	自然環境教育	施策	029	ふるさと自然体験教育の推進	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	--------	----	-----	---------------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
066	観察飼育舎とふれあいプラザの機能統合を図ります。	新規	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	関係者との打合せ（単位：回）	0	5	2	0	0	0	0	0	0	基準値：H25 関係機関・団体との打合せ
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	観察飼育舎来場者（単位：人）	4,294	10,000	3,725	10,000	0	10,000	0	10,000	0	基準値：H25 ※栗山公園年間来場者より予測
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	利用状況、施設管理費用を考慮すると、施設を統合し利活用を図ることが必要であり、これまでの町民と町が行ってきた「人と自然との共生」を広くPRするための施設となることは町民ニーズにも合致し、一つの課題解決にも繋がる。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	行政の建物であるファールルの森観察飼育舎の老朽化への対応、ふれあいプラザの利活用を図ることはいずれも公共性が高く、行政が主体的に行うべきものである。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	機能統合しふれあいプラザに飼育舎を設置することで、来場者も多くなり、「人と自然との共生」を図ってきた栗山町の取組みも併せてPRすることが出来る施設となることから最適な方法である。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	飼育舎の新たな設置、ふれあいプラザの増設により事業コストは掛かるものの、費用対効果は非常に高い。ファールルの森既存飼育舎の鉄骨解体費用については、更に検討が必要である。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	特定の個人・団体に偏っていない。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	関係機関・団体と十分な打合せを行い、補助事業を活用しコスト削減に努めること。また、ファールルの森のその後の利活用を検討すること。
2 次 評 価	4. 改善を検討（その他）
	機能統合後のふれあいプラザが果たす役割、現飼育舎の跡地活用策など、周辺一帯の全体計画（具体像）を早急に作成すること。その上で、事業内容・事業費を整理し、特に補助制度については、活用できるよう十分に調査すること。
外 部 評 価	
最 終 評 価	4. 改善を検討（その他）
	関係団体等とも十分協議の上、機能統合後の両施設ははじめ、周辺一帯の今後の利活用計画（全体構想）を早急に作成すること。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	ファールルの森の今後の利活用は御大師山周辺の整備と併せて、今後、関係者、専門業者とも協議を重ねる。また、補助金を活用するなど町単費を極力抑える。
課 題 ・ 問 題 点	エゾエノキの移設は平成28年の春先に行い、葉の生育状況を確認する必要がある、ふれあいプラザの裏庭の伐木は今年度中実施する必要がある、すべての工事を平成28年度中に行うことが困難である。
改 善 策	補正対応で伐木のための手数料を補正し、巨木以外は職員による伐木を行い、経費削減に努める。